

# 令和元年度の反省

秋田県立秋田中央高等学校

## 1、各分掌

	目標	反省・今後の取組等
総務部	<p>(1) P T A 活動の活性化に努め、総会や P T A 関係行事への参加者を増やす。</p> <p>(2) 儀式（入学式・卒業式、始業式、修了式等）の厳粛化を図り、生徒が本校生にふさわしい立派な姿を示せるよう日頃から指導していく。</p> <p>(3) 学年部、他分掌との連携を深めながら、分掌活動を取りまとめ学校運営の円滑化を図る。</p>	<p>(1) P T A 総会は大型連休のため平日に実施したが、参加者は昨年並みだった。学校祭における P T A 企画は多くの役員の協力により好評を得た。昨年度実施できなかった P T A 研修は少人数であったが充実した研修となった。</p> <p>(2) 生徒の儀式に臨む姿勢は良好である。</p> <p>(3) 分掌会議・学年部会の日程がとれない月もあったが、職員の工夫と協力で無事に実施できた。</p>
教務部	<p>(1) 授業時数の確保と時間割の円滑な実施</p> <p>(2) 新学習指導要領及び S S H 事業二期目の円滑な運営を考慮して、教育課程の検討を続ける。</p> <p>(3) 生徒の学力や表現力の向上につながる評価の方法について検討する。</p>	<p>(1) 成果：曜日交換、授業交換ボードの活用による自習時間の削減をとおして、授業時間の確保につながった。課題：第 4 回定期考査後の 1、2 年生の 0 学期を効果的に進める。</p> <p>(2) 課題：教育課程検討委員会の意見を踏まえ、来年度早々にスタートできるように準備を整える。</p> <p>(3) 成果：大学入試改革対策推進チームの取り組みの 1 つとして、定期考査を活用した思考力の養成を進めた。課題：課題テストを学力の向上や思考力養成にどのように活用できるか、進路指導部と連携して検討する。</p> <p>その他の課題：教務規定の一部内容が現状に合っていないという指摘があり、再検討が必要である。関係の分掌と連携しながら進めたい。</p>
進路指導部	<p>(1) キャリア教育の視点に立ち、S S H の成果を踏まえながら、生徒の進路目標の達成に向けて系統的・計画的な取り組みを展開する。</p> <p>(2) 自ら主体的に学ぶ力を育て、基礎・基本の定着をもとに学力の向上を図る。</p>	<p>(1) S S H の探究活動の取組と連動させながら、早期に進路意識を明確にし、高い志を持った生徒の育成を一層推進する。次年度からの「主体性の評価」を視野に、高校 3 年間を通して多様な活動の在り方と「成果の履歴」としてのポートフォリオや新調査書への対応を検討していく。</p> <p>(2) 新テストにむけて教務部や研究部、学年、教科等と連携しながら校内研修や定期考査改善に取り組んだ。家庭学習時間調査により生徒の実態把握に努め、学年やクラス、部活動等での学習指導に活かせるようにした。学習時間の増加に向けて実効性のある対策を講じたい。新テストの制度設計の見直しによる混乱もあるが、「確かな学力」の養成が何よりの新テスト対策であるという共通理解に立って、学校全体として組織的に生徒の学力向上を推進したい。</p>

	目標	反省・今後の取組等
生徒指導部	良識ある社会人になるために、ルールを遵守する態度を身につけ、秋田中央高校の一員として節度ある行動ができるようにする。	(1) 学年を追うごとに自覚と意識の向上が見られた。あいさつ、身だしなみ、協調性について、達成度は高い。生活習慣や交通ルールは担任だけでなく、集会時に学年主任等が話をすることでより緊張感が生まれ、生徒の心に届いたようだ。問題発生時に限らず、今後も全体に注意喚起する機会が必要である。 (2) 登下校指導、身だしなみ指導だけでなく、他人との協調性や思いやりの心をどう育成していくかが課題である。(特にネット利用) (3) 交通事故が多かったので、引き続き登校指導を行う。家庭や社会(警察など)との連携を一層取っていききたい。
特別活動部	(1) 部活動を通じて人間力の涵養に努めるとともに、部活動に所属する生徒の学習面での課題を解決し、プライドをもって活躍できる生徒を育成する。 (2) 生徒会の運営を活発にして、生徒が全員参加し、自主的な運営による中央祭、球技大会等各種行事の内容の充実を図る。 (3) 日常的な活動を取り入れた各委員会活動を通し、充実・活性化した生徒会を目指す。	・各行事により主体的に参加する生徒を増やしたい。 ・委員会活動の内容を精選し、生徒の負担を減ずる。 ・来年度は創立100周年にあり、特活行事の日程や高体連行事の日程に注意する必要がある。 ・生徒会執行部では、昨年度からパソコンを使用して企画書を作成するよう指導してきた。結果、効率的に準備作業を進めることができ、内容も詳細に踏み込んで改善を加えることができた。生徒自身のアイデアで行事を企画・運営する意識も高まり、より生徒主体の活動となった。 ・学校祭では、担当の生徒が各企画を行う目的や意義を考えるようになり、当日の展示を含み徐々に内容にも反映されてきている。生徒主導での改善を目指したい。
保健部	自己や周囲の健康課題に対して、適切な対応ができる能力の育成を図る。	(1) 生徒保健委員会による中央祭での展示および環境衛生活動、性教育講話、救急救命講習等、ほぼ予定通り実施できた。今年度は保健委員に教室内の温度や湿度の確認も毎日行ってもらい、教室内の健康的な環境維持に努めた。救急救命講習は土崎消防署の御指導をいただき、初めてシミュレーション形式で行い、より実践的で充実した研修になった。 (2) 生徒・職員の人数が減っているため清掃区域を割り当てるのが難しくなっている。大清掃の際には清掃用具の確認・交換を呼びかけ、清掃環境の整備を図った。
図書視聴覚部	(1) 生徒の自主的な学びや生きる力を育む環境としての図書館づくり (2) 生徒・職員の図書館利用の促進と生涯にわたる読書習慣の育成 (3) 職員が利用する視聴覚機材の管理(主にプロジェクター)	・読書習慣を身につけさせるために、生徒に図書館で読書させる機会を設ける。 ・県立図書館とは約300冊の活発な相互貸借・授業支援を行い、各教科の調べ学習で活用された。 ・図書委員の書店訪問、中央祭古本市等に積極的に取り組んだ。 ・パソコン接続用プロジェクターが移動し易くなるか、TVモニターの設定が進めば、授業にさらに活用出来る(予算問題もあり今後の検討課題)。 ・「躍進」の授業で使用する図書の早期把握と購入を進める。

	目標	反省・今後の取組等
研究部	<p>(1) 生徒が主体的に活動し、探究していく中央高校型授業スタイルを確立させる。</p> <p>(2) 職員が効果的に研修できる環境作りに努める。</p>	<p>(1) 成果：10月の研究授業月間、12月の授業研修会等、研修を重ねることで教員の授業を見る目が養われてきた。よい実践を参考にして個々の職員がレベルアップを図ろうとする姿勢が見られるようになった。</p> <p>課題：生徒に予め「主体的な活動をすることが評価の観点になること」や「主体的な活動をどのように評価するか」を伝えておくことが必要である。</p> <p>(2) 成果：11月の中央研修は、国語の授業と協議会の様子を参加者に提供するものであったが、県外参加者の満足度が高く、貢献できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年は生徒も多くの参加者の前で発表する機会が増え、良い経験となった。</li> </ul> <p>課題・授業を家庭学習につなげ、学力を向上させる手立てに工夫が必要。</p>
SSH	<p>(1) 全校体制の課題研究と指導のマニュアル化</p> <p>(2) 授業を通じた「課題解決能力」のさらなる育成</p> <p>(3) 外部発表会、各種コンクール参加、科学系オリンピックへの参加促進</p>	<p>(1) ・躍進を全職員で指導する体制が整ってきた。躍進Ⅰ～Ⅲで用いる授業ワークシートを作成したため、3年間を見通した指導がしやすくなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理科以外、文系の先生方も積極的に参画する組織作りが必要である。</li> <li>・文系理系間、教科間での分野横断的な情報交換の機会があると良い。</li> <li>・文系の躍進ⅡAは週1時間の実施ではなく、隔週2時間連続で実施する方が調査や作業が進む。</li> <li>・文系の班が連携する機関（大学、官公庁など）を開拓する必要がある。内容の充実を図るためには、フィールドワークや講義なども取り入れた方が良い。</li> <li>・生徒や教員の活動の蓄積が共有できるようにする必要がある。</li> <li>・個々の生徒について、成長や身に付けた力、向上した部分が見える形で追跡できると良い。</li> </ul> <p>(2) 中央型探究授業と銘打った研修会を行い浸透しつつあるが、実施時期や回数など持ち方を考える必要がある。</p> <p>(3) 事業主任が理科では、発表や探究活動の指導が手薄になる。事業運営と探究活動指導は、担当者を分ける必要がある。</p>

## 2、各学年部

	目標	反省・今後の取組等
1 年部	<p>(1) 基本的な生活習慣を確立し、充実した高校生活を送るため自己管理能力の向上を図る。</p> <p>(2) 学問の意義と価値を考え、進路実現を目指すための基礎学力の定着を図り、自主的・意欲的に学ぶ姿勢を育む。</p> <p>(3) 諸活動に主体的に参加し、協働して目標実現に努力する姿勢を養う。</p>	<p>(1) 学年集会等学年全体に注意喚起する機会を今後も設けたい。ネット利用を含め、他人との協調性や思いやりの心の育成が1年生での課題である。</p> <p>(2) 話し合いや発表などしっかりできる生徒が多いが自ら求めて行動を起こす生徒が少なく、主体性をいかに育むかが課題である。</p> <p>(3) 自主性・積極性が乏しい場面もみられ、それらとともに社会性を育むことができるよう学年全体で取り組んでいきたい。</p>
2 年部	<p>(1) 人を傷つけない優しい気持ちと傷つかない強い精神力を養う。</p> <p>(2) 貪欲に学習に取り組む姿勢を育み、学力の向上を図る。</p> <p>(3) 個々の能力と特性を効果的に活かすことで、共に高め合える集団を育成する。</p>	<p>(1) 困りごと調査の結果「いじめ」と思われる事例は見られなくなった。</p> <p>(2) 模擬試験の成績は上昇している。ただ、上位と下位の差は徐々に大きくなってきた。</p> <p>(3) 良し悪しは別にして、各クラスの個性ははっきり分かれた。行事などを通して見る限り、クラスの自主性も高まったように思われる。</p> <p>各目標は概ね達成できたと思われが、引き続き指導を加えていきたい。</p>
3 年部	<p>(1) 自己管理を徹底し、主体的・自律的に学校生活を営む生徒を育成する。</p> <p>(2) 将来を見通した進路目標を選択・決定し、実現に向けて継続的に取り組む態度を養う。</p> <p>(3) 最高学年としての自覚を持ち協働的に諸活動の充実に貢献する態度を養う。</p>	<p>(1) 教師の指導からだけでなく、生徒同士の関わり合いによる自律心の育成が課題として残った。</p> <p>(2) 各教科による生徒の実態に合わせた学習指導の工夫と徹底がなされ、徐々に生徒の学習に向かう姿勢や取組に変化がみられた。AO・推薦、指定校推薦等々で進路が早期に決定した生徒に対する指導については工夫の余地がある。</p> <p>(3) ホームルーム活動や学校行事・部活動等を通して自分の役割を果たす責任感や、協働的に取り組む態度が醸成された。複数の部活動において、全国大会レベルでのすばらしい活躍があり、当該生徒はもちろん周囲の生徒にも活気を与えた。</p>

※「各教科」(省略)